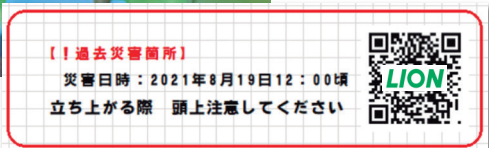


ビーポップの活用例

過去の災害箇所を明示し、教訓を風化させない



軽微な災害であっても、注意喚起のために発生箇所には発生日時や注意すべきポイントを表示している。最近ではQRコードを追加し、スマホなどで読み取ることで、正しい動作を動画でチェックできるようにしている。



安全表示で

人づくり

ビーポップを活用した安全活動事例

第29回

ライオン株式会社 明石工場

会社概要

●本社所在地: 東京都台東区 ●設立: 1891年 ●従業員: 連結: 7,584名 単体: 3,165名 (2021年12月31日現在) ●明石工場所在地: 兵庫県明石市 ●工場操業開始年: 1969年 ●工場従業員: 341名 ●主な事業内容: 歯磨きや歯ブラシ、石鹸、洗剤、ヘアケア・スキンケア製品、クッキング用品、薬品等の製造販売など。

地道で大変な安全活動も仲間と工夫し楽しく継続!

東京都台東区蔵前に本社のあるライオン(株)は、歯磨きや歯ブラシ、石鹸や洗剤といった私たちの生活に欠かせない製品を開発、販売している日本有数のメーカーです。中でも同社の明石工場は、口腔ケア製品の主力工場として歯ブラシ、歯磨き共に年間1億から1億2000万本もの製品を市場に送り出しています。

そんな同工場では、全社の取り組みである「全従業員の安全と健康を確保し、快適で働きやすい職場環境の確立を目指す」に基づいた安全衛生防災活動を地道に行い、過去の災害事例箇所の明示や、危険箇所の注意喚起など、さまざまな場面にビーポップを活用しているそうです。

そこで今回は、同工場の安全活動の核を担う工場管理グループの毛利マネジャーと、実際にビーポップを使用している同グループ安全衛生防災チーム橋谷リーダーに、力を入れている安全活動やビーポップの活用方法などについて話を伺いました。

実効性のある安全管理 速やかな災害事例共有と対策

同工場では現在、タイムリーで柔軟なリスクアセスメント実施による安全管理の実効性向上に力を入れています。「新規設備の導入や増設、作業変更などが頻繁にあるため、その都度必ずリスクアセスメントを行っています。しかし、あまり煩雑になると現場に負担が掛かりますので、同等の設備であれば同じ評価の中で、管理側が安全性や危険性を確認し、改善や周知するなど、柔軟に対応することで実効性を

高めるようにしています」と橋谷さん。

そして、同社が最重要視している「安全最優先の風土醸成」にも注力しています。

「例えば、生産がとて忙しいうとき、管理職はどういう方法で作業者の安全を担保するのか、そういうところを我々は側面から支援します。ハード面では前述の通り設備の安全を確保して現場に渡しますが、ソフト面としての安全最優先という意識が管理職にも現場にも定着するよう、今は情報共有に力を入れて取り組んでいる最中ですよ」と橋谷さん。

「残念ながら災害が発生することはあります。その事例を事業所間で、すぐに情報共有し、『リスクアセスメントは行われていたか』『災害時に何か不具合がなかったか』と、もう一度問いかけることで安全対策をブラッシュアップし、次の災害を防ぐことができるのです」と、毛利さんは情報共有の重要性を強調します。

仲間の安全を願う気持ちが さまざまな表示に表れる

同工場では情報共有の一環として、過去に災害があった箇所にビーポップによる表示を掲示していますが、2年前に操作講習会を開催し、現場の方たちもビーポップを使えるようになってから、安全表示の幅が広がったといいます。

「今はさらに使える社員が増えて、10数名は使いこなせるのではないのでしょうか。最近はいろんな表示に現場の思いを込めて、『こういうものが欲しい』と感じたものが形になり、事業所の中でどんどん広がっています。仲間の安全のために『ここは不安全だから分かりやすく表示し

その他の活用事例



見る人により分かりやすくなるため、具体的な装置名や写真を入れたり、直感的に危険が感知できるイラストを挿入するなど、作業現場がそれぞれに工夫して多彩な安全表示を掲示している。



工場管理グループのみなさん。写真左から、毛利さん、橋谷さん、佐賀さん、保健師の吉川さん

お問い合わせ

マックス株式会社

オフィスプロダクツ営業部

安全表示・人づくりコンテスト事務局

人づくりコンテスト

検索

TEL:03-3669-8108(代) Mail:anzen@max-ltd.co.jp